



プチ・リニキュール

童話「星の王子さま」の王子様は、とても小さな惑星に住んでいました。小屋ほどの大きさながら、火山が三つもある、素敵な小惑星です。

地球がこの大きさだったなら、私たちの環境に関する考え方も違っていたことでしょう。地球はあまりにも広大です。だからこそ、海に毒を流しても、山にごみを捨てても、それが自分たちには跳ね返ってくるなんて、長らく気づきもしなかったのです。◆もしも地球が、直径1メートルに縮んだら？

生命の海科学館には、直径1mの「さわれる地球」があります。このサイズの地球では、一番高いヒマラヤ山脈も、一番深



さわれる地球

空気の90%が集まっている対流圏は、ほんの1mmの薄さです。ぜひ、実際にふれて体感してみてくださいね。

いマリアナ海溝も、1mm以下のかすかな凹凸。実際にふれて動かすことで、生物が生きられる環境の薄さやはかなさを、実感することができます。

地球温暖化や寒冷化、地震や生物多様性など、現代の私たちが囲む環境は、地球のしくみや生命の歴史と切り離すことができません。人間の想像力を超えた壮大なスケールや悠久の時間にも、少しでも実感を伴った認識をもつことが、いっそう大切になるのではないのでしょうか。

◆新しい体験コーナーが登場します！

3月17日、科学館1階に、地球や生命の進化について遊びを通して体感し、想像し、学ぶことのできる新コーナーがお目見えします。さわること、動かすことで、地球が、科学が、ずっと身近に感じられるはず。どうぞ気軽に立ち寄りください。

がまごおり

若者サポートステーション

高須 将弘
☎ 67・3201

◆親と子の集い勉強会で

前回に引き続き、親と子の集い勉強会についてお知らせします。

勉強会は毎月開催しています。3月は18日(日)午後2時からです。

今年度は、延べ80人ほどの親御さんがお子さんとの関わりについて学びたいと来所されました。来年度もさらに力を入れてやっていきたいと思えます。

サポートステーションの勉強会に来ていただいている講師は、私が親との関わりについて悩んでいた時にカウンセリングを受けていた方です。ほかの講師の方との違いを強く感じるところは、私たちと同じ目線で対話をされているところです。肩

の力が抜けて、とてもほんわかした空気の中で話していただいています。

親御さんたちも気兼ねなく本音を言うことができ、感情と気持ちを表に出しやすい空気の中にいることが伝わってきます。

親と子の集い勉強会で一番大切にしていることは「親御さんの気持ちのやり場があること」です。同じような悩みを持つ親御さんとの関わりとか、気持ちや感情を整理する場があることで、孤立せず支援機関を利用していいということを感じてもらいたいです。

また、お子さんが支援機関に出かけることができない状態の時は、まず親御さんに足を運んでいただき、気持ちのやり場があることや支援機関があることを知っていただきたいと思います。

お子さん本人だけではなく、親御さんにもお子さんとの関わり、または気持ちのやり場の一つとしてサポートステーションを利用していただけたら幸いです。

ホームページ <http://gyss.jp>